



里山通信

2016.10.1 発行

No. 1

ご挨拶

今年で東京里山開拓団を立ち上げて7年目、児童養護施設との里山開拓は4年で33回実施し参加した子どもたちはのべ150名以上となりました。試行錯誤の連続でしたが、子どもたちの里山に直接触れたときの反応がうれしくてここまで続けてこられました。初回小学生だった両親のいない女の子が高校生になって「今回で里山を卒業します」と伝えてくれた時子どもの成長を喜ぶ親の気持ちになりました。今年は2件目となる児童養護施設との里山開拓も開始し、NPO法人化やサポーター募集、企業連携準備も進めています。会員も20人を超えました。この里山通信は、半期に一度、開拓団とのご縁をいただきました方々への活動報告としてこれからも継続するつもりです。ボランティア活動というのはいどこまで継続できるかで真価が問われると考えていますので、今後とも末永くご支援をお願いいたします。

代表 堀崎 茂

◆◆開拓団活動記録◆◆

- 4月 13日 運営会議&準備会議@下北沢
- 26日 入会希望者説明会@下北沢
- 5月 11日 準備会議&懇親会@渋谷
- 15日 里山開拓（機恵子寮）
- 22日 里山開拓（調布学園）
- 6月 8日 運営会議&準備会議@下北沢
- 26日 里山開拓（機恵子寮）
- 7月 10日 里山開拓（機恵子寮）
- 13日 準備会議@下北沢
- 8月 3日 会員暑気払い@新宿
- 8月 28日 きえこ祭り招待@機恵子寮
- 9月 14日 準備会議@下北沢
- 9月 25日 里山開拓（機恵子寮）

2016年5月22日

東京都調布市の児童養護施設調布学園の皆さんと初めて里山開拓を行いました。調布学園からは小学4年生が9名参加。初めて里山に足を踏み入れた子どもたちは虫・花探しに大興奮。街中ではなかなか見られない生き物・植物が里山にはたくさんいます！



2016年6月26日

梅雨真っ只中の貴重な晴れ間に太田区の児童養護施設・救世軍機恵子寮の皆さんと里山開拓を実施！今回のプログラムは弓矢作り。悪戦苦闘しながら子どもたちは工夫を重ね、弓矢作りには細くてしなる木が適していることを発見♪最後はみんなMy弓矢を作ることができました！！



「もうすぐ夏だ！」ということで、里山恒例のスイカ割りも行いました。

2016年7月10日

6月に続いて、大好評の弓矢づくりを実施！その後、的当て大会を開催。的も自分たちで色を塗って制作しました。優勝者はなんと120点獲得！



お昼ご飯は「夏」ということで、火を使わないサンドイッチ。思い思いの具を挟んで、豪華なものが出来ました。



※開拓団では会員・サポーターを常時募集しています。

詳しくは当方WEBサイトをご覧ください。

知恵を集めて

開拓団では、安全に有意義に里山での活動ができるよう、会員同士で情報を持ち寄り、研修を行っています。その一部をご紹介します！！

インドの国際的なヨガ団体 The Art of Living (AOL) の紹介！

私は2015年以降この団体のヨガプログラムに参加し、今年の2、3月にインド本部に滞在しました。その経験について準備会議で話をしました。

「初心を忘れず地道な活動を続けること」と、「今自分たちが持っているもの」に注目し、目標を達成するために工夫する考え方（ジュガード精神といい、インドで大切にされている）は、国や活動内容は違えど里山開拓団にも当てはまるのでは考え、実際のエピソードを交えてお話をしました。既成概念にとられない判断と、幸運と思える結果が印象的な実例ですが、それが実現された背景には、心と体と感情を鍛え、知恵と共にいること、というヨガの信念があります。

国や背景となる文化が大きく異なる団体ではありますが、参加者の方には興味を持って聞いていただきました。

AOL が瞑想で人々のストレスを無くすことを目指している点では、里山開拓団が里山での瞑想に注目していることと共通すると思いますので、参考にいただければ幸いです。

開拓団 伊藤英里佳

里山での危機管理

東京里山開拓団

もしも地震が起こったら・・・

【まずやること】

- 火の始末
- 揺れがおさまるまでその場で待機
- 点呼(大人・子ども全員)
- 荷物のまとめ(状況により必要最低限のもの)

下山時に注意すること

- 余震がおさまってから下山する
- 落石や滑落に注意
- 慌てずゆっくりと声を掛けながら
- 先頭と後尾は必ず大人が立つこと

がけや斜面が崩れやすくなる可能性があります。安全を確認しながら落ち着いて下山しましょう。ラジオなどで情報収集をおこないましょう



開拓団 千葉 朝野

里山は今（里山の生き物、植物を紹介します♥）

私たちの通う里山には**自動撮影カメラ**が仕掛けてあります。山頂での定点撮影は8年間に及び、撮影できた動物たちの写真は数百枚になります。私たちが里山に行くときはほとんど姿を現わさないのですが、私たちのいない大半の時間は実はここが動物たちの世界であることが写真からよく分かります。

一番たくさん写っているのは**タヌキ**です。タヌキ夫婦の死ぬまで添い遂げるといわれる仲睦まじい姿がよく見られます。他にも、生まれたばかりのウリボウを連れた**イノシシ**、春先のやせ細った**シカ**、群れなして移動する**サル**、野生化した**アライグマ**、気品高い**ヤマドリ**、ずんぐりむっくりの**アナグマ**、他にも**イタチ**、**ノウサギ**、**リス**など多様な動物たちが観察できます。

これだけの動物たちがいるということは豊かな里山の生態系が保たれていることの証明でもあります。動物たちが主人公の桃太郎の世界は今も東京都内に実在するのです！





私たちの目指すところ



東京里山開拓団はこれからどこへ行こうとしているのか、どうやってそれを実現しようとしているのかをお伝えしたいと思います。

「どこへ行くのか」については**3つの目標**があります。まず第一に、**児童養護施設との里山開拓をさらに多くの子どもたちとより価値ある形で継続して実施**することです。私たちの目指しているのは、単に家庭から離れて暮らす子どもに自然で遊ぶ機会を提供することではありません。里山や仲間とより深く関わりより経験を重ねて、何かあったらいつでも戻って来られるような「ふるさと」を心のなかに作り上げることです。

第二に、**現代都市社会の課題克服のために里山を活用する新たなモデルケースを実現**することです。この里山には現代都市社会の課題以前の景色があり、自分自身、人と自然、人と社会、社会と自然の関係をじっくり見つめられる、かけがえのない価値があります。具体的には、メンタル対策に取り組む企業従業員向けに、里山でマインドフルネス研修を提供する準備に着手しています。

第三には、私たちの**環境保全と社会福祉を一石二鳥で進める社会貢献モデルを他の山林に広げていくこと**です。東京周辺にも林業・農業・生活で使われず、地主も地元も入ったことのないような荒れた山林はまだたくさんあります。私たちの社会貢献モデルは支援先や自然に加えて、ボランティア、地主、地元、社会にとってもそれぞれメリットのあるものです。広く実践することを通じてその価値を伝えていけたらと思っています。

これら3つの目標を「どうやって実現するのか」については、大きくいうと**2つの取り組み**を進めています。一つ目は**直接活動に参加する会員以外にも様々な関わり方を用意して組織的運営を進めること**です。現在進めているNPO法人化のなかで、直接参加することはできないけれど主旨に賛同して資金面・広報面で協力する「個人・法人サポーター」、将来的な活動基盤づくりにアドバイスいただく「NPO法人理事・幹事」を取り決めました。また、会員のなかでも事務局・広報・企画・研修・会計・渉外等組織運営上の役割分担をさらに進めているところです。

二つ目の取り組みは、**活動を安定的に継続するための自主財源づくり**です。これまで、東京里山開拓団の活動資金は、林野庁や東京都・セブンイレブン財団からの助成金、東京キワニスクラブからの表彰副賞、会員からの会費や寄付などでやりくりしてきました。しかし活動を継続・拡大していくためには安定的な自主財源確立が不可欠と考えています。具体的には、企業連携による新たな財源づくり、会員やサポーターの拡大による会費収入拡大を進めています。

私が八王子市美山町の荒れた山林に通い始めた10年前には、現在のような形でこれほど多くの方々とともに進められるとは思っていませんでした。ただ、自分の手で山林を伐り拓いていく中で里山の奥深さや魅力、活用の可能性は直感的に感じていましたし、今もそれに夢中になったままです。自分自身にとって心地よく、楽しくて、やりがいのある活動になっているからこそ続けられるし、他の人も集まってきてくれるのも感じていますので、原点をこれからも忘れずに運営していきたいと思っています。



会員の紹介

開拓団には年齢も仕事もバックグラウンドも様々な人が参加しています。開拓団に参加した理由や、里山の楽しみ方などを紹介します。

2年前に開拓団に入会しました半崎です。2年半前に東京に引っ越してくる前まで、森のようちえんで働いていました。森のようちえんは、園舎を持たず、里山などをフィールドとして、毎日野外で過ごす幼稚園です。その子どもたちは、とてもたくましく、創造力があふれる、表情豊かな子たちでした。自然は子どもたちに試練を与え、仲間とつなげ、達成感や感動を与えてくれました。私にとっても、豊かな自然の中で過ごした日々は、人とのつながりや生命の尊さを気づかせてくれ、生きる楽しみを与えてくれました。

東京へ転居後、自然の中で子どもと関わることがしたいと思い、開拓団に入会しました。それまで児童福祉施設の子どもと関わったことがなく、少し緊張して迎えた一回目の里山の活動でしたが、たくさんの笑顔に出会えた日となりました。その笑顔が、これからも開拓団に関わっていきたいと思っている理由です。

半崎 恵

1年半前から、開拓団の活動に関わっています。子どもと関わることが大好き！自然の中にあることが大好き！ということで、参加できる活動がないか探していたところ、開拓団に出会いました。

はじめて里山を訪れたときは、想像以上の急な傾斜に登りきれぬのか…と不安に思いつつ、広場に到着した時の木々の香りがとても気持ちよかったのを覚えています。活動では、「こんな木の活用方法があるのか」、「見たことのない虫がいる！！」など、子どもたちとの関わりでたくさんの発見があります。回数を重ねるたびに、子どもたちと色々な話ができることが嬉しく、また会いたいと思う気持ちが私の開拓団での活動の原動力です。月に1回の活動なので、里山を訪れるたび、季節の変化と子どもたちの成長を実感できること、それもまた開拓団の活動の面白さの一つです。

飯塚 琴乃

里山アルバム



(上段左) 目隠しですいか割り
(上段中) 虫眼鏡で火おこし
(上段右) 目隠しでロープを伝って進む暗夜行路
(下 段) 作った弓矢で的あて



◆◆編集後記◆◆

里山通信 No.1 がついに完成しました！今までの活動をまとめてみると、「あ～、あの時の里山開拓でトイレが壊れちゃったっけ」「そういえば、施設の先生たちも面白かったな」などなど、色々と思い出すことができました。同じ里山に行けど、毎度毎度季節も違えば、活動内容も違う。参加する会員も違うということで、どれ一つとして同じ出来事はありません。

次の里山通信発行は半年後を予定。これからの半年でどんな楽しい里山にできるかなと期待を込めて編集後記としたいと思います。

飯塚ノ記